

第 64 回神奈川建築コンクール 一般建築物部門 審査総評

審査委員 大原 一興

今年度は 3 年ぶりの募集で対象となる建築物の竣工時期は 4 年間となり、一般建築部門への応募は前回より 29 件増えて 69 件となりこれまでにない激戦となった。このほか新型コロナウイルス感染防止の配慮において、様々例年とは異なる選考過程となった。選考の経緯について記しておく、書類審査による一次選考では、あらかじめ応募作品の資格を確認し、各作品に対して各審査委員が評価点をつけ、その合計点の上位の作品から検討していき、ひとつひとつの作品を精査し合議の上、現地審査の対象となる建築作品を 10 件までに絞り込んだ。現地審査は 8 月末におこなわれる予定だったが新型コロナウイルス第 7 波にあたり、web 上での説明とオンラインでの動画や実況中継などを交えたやりとりとなった。例年感じとることのできる周辺地域の様子、暑さへの対応、匂いや音光、使用者のつぶやきなどの実感が得にくいという情報遮断された状態での審査となり、選考はとても苦労した。現地での審査委員間の印象や評価についての意見交換ができなかったが、第 2 次審査会で意見交換の後、投票により最終的に選考することにした。各人の評価点数の合計点を参考に協議した結果、優劣つけがたく、異例のことだが総合点から判断して今年度は最優秀賞を 2 点選出し、優秀賞 6 点、またアピール賞 2 点を選定することにした。

全体的には、優秀な設計や技術を発揮した数多くの作品の中から、次の時代を反映する技術の象徴としての建築や神奈川のこの地の特色を印象づける新たなレガシーと言えるべき建築に賞を出すことができたように思う。

最優秀賞の「**Port Plus 大林組横浜研修所**」は、企業の研修所として実験的な試みを満載している地上 11 階の高層木造耐火建築物で木造建築の将来の可能性を体現している。ダブルスキン、グリーン化など環境技術と共に、情報系と建築物との一体化など技術について高い評価が得られ、横浜に新たな名所が生まれた感がある。

同じく最優秀賞の「**開成町庁舎**」は、「あじさいパネル」をはじめとして親しみやすい存在としてのデザインの工夫もさることながら、県内自治体の進める地球温暖化対策のシンボルとしてのコンパクトな庁舎建築として、国内最先端の技術を駆使して、Nearly ZEB の認証を得た、地元の誇るべき希有な施設となっている。

優秀賞の「**富士屋ホテル**」は、国の登録有形文化財としての歴史的にも価値の高い唯一無二の存在である既存のホテルだが、この建築を未来につなぐための、耐震改修、徹底した木造のインテリアの細部にわたる忠実な復元、環境配慮の様々な技術、景観への配慮など、密度の高い検討に裏付けられた計画により実現させている。

「**横浜市役所**」は、横浜のウォーターフロントの新しいランドマークであり、町の結節点としての重要な位置における大規模な庁舎建築として、環境配慮、免震技術、回遊動線など

現代に求められている膨大な技術的建築要素をうまく集約整理しつつ、市民のアクセスしやすい開放的な空間の確保も実現させている。

「春日台センターセンター」は、運営者の社会福祉法人との6年間にわたる検討期間を経て実体化した福祉施設であり、長い付き合いの中から生まれてきた施設の方向性とプログラムはこの地域のニーズにうまく寄り添い、空き店舗であった場所・空間が改変されていく経緯から、もはや建築物を超えた物語が形成されていると言える。

「JR 横浜タワー」は、一日約200万人の乗降のある横浜駅の西口再開発高層ビルで、既存の線路を避け、地下鉄函体の上部利用、既存の馬の背解消、などなど多数の難題解消の要求に応え、構造的にはハットトラスの採用、環境配慮技術やさらに複雑な動線処理に加え、多社間サインの調整などをこなした大事業と評価された。

「小田原市民ホール（小田原三の丸ホール）」は、小田原の文化のまちづくり拠点形成として大規模となりがちな建物を設置するにあたり、景観や視点到配慮し小田原城への展望を重視するもので、広場と一体となった公共建築物の典型的な空間構成を実現させたものとして質の高い空間が出現している。

「児童養護施設 子どもの園」は、老朽化による施設の建替だが、小舎制の単位施設を家として分節し、しかし一体的にまとまりのある全体を構成しているもので、木材を多用し建具などの配慮をきめ細かくおこない、中庭を活用した丁寧な作り込み方が、親しみやすく暮らしやすい家としての空間を実現している。

今回のアピール賞は、まず「景観」として「神奈川大学みなとみらいキャンパス」は、高密度の都市空間の中における高層化したキャンパスのあり方を提案するにあたって、開放性など周囲の環境との文脈調整が見事になされている。また「既存建築物の有効活用」として「横浜北仲KNOT」では、58階建ての大規模の再開発の足下で既存建築物の保存に加え旧倉庫棟の復元をおこない歴史広場として歴史性を残しつつも新旧融合の全く新たなヘリテージの創出という保全の新たな試みとして提案している。